

四、人間の死とは……

(ページ 「脳死」 参照)

脳死が死だったら、私はおかしいと思いますよ。

しかし、人間というものは、どうしても、「生まれて死んだらお終いだ」と思ってしまう。偉い人もみんなそうだと思います。

ですから、この頃のお医者さんは、「脳死が人間の死だ」と言うでしょう。

お医者さんが脳死の人を、「あなたは、これで死んだ」と宣言する訳でしょう。これはおかしいですよ。人間が人間の死を決めるのは、おかしいです。

何故でしょうか？ ——その辺になってくると、それ以上は追求しなすね。追求して、本当の事が分かってきたら、今までやってきた事がみんな駄目になってしまふからすね。

以前ありましたよ。植物状態の人間になってから、十五年も経った人が、突然意識を取り戻した話が……。生き返った人がいるんですよ。

植物状態になった人の魂は、ここに(自分の肉体のすぐ近くに)ちゃんといるんです。ただ、自分の肉体に入れなくなっているだけなんです。痙攣とか、他の原因でコンタクト出来なくなってしまっただけなのです。

十五年目に帰って来たこの人は、自分のお母さんが亡くなったのを、ベッドに寝ていて、心で観ていたんです。意識はあるんですが、ただ次元が違ふんです。脳が働かないから、肉体にコンタクトが出来ないだけなんです。

この人はお母さんが亡くなるのを観て、「おかあさんっ！」と叫んだのです。そうしたら、バーン！と、自分の肉体に、入って来る事が出来た訳です。

——こんな事があるんです。

「あつ、私……、今まで、何をやってたのかしら……」

「あなたはね、長い間、眠っていたんですよ」

ということなんです。

本当は、心臓が止まった時が、死なのです。

何故ですか？ ——人間は、精子と卵子が、結合して出来たものかもしれませんが、

実は、心臓は神の領域りょういきであり、直接ちよくせつ、神のものなんです。神が動かしているんですよ。

心臓から出る血液けつえきは、厳密げんみつに言ったら、神の所有物しよゆうぶつなんです。「神の水かみ」なのです。

心臓は、心の蔵くらでしょう。血液がグルグル……回たがっているんですね。お互いに輸血ゆけつをしたり出来るのは、神のものだから出来るんです。

精子と卵子も当然、神のものですね。結合したら、人間は先ず、心臓が出来る（受精後、三週間目位に心臓の鼓動こどうが始まり、血液が流れ始める）。そして、核分裂かくぶんれつを起こして、三ヶ月になったら、身体が出来てくる。二ヶ月だったら、まだ分からないですけれども、三ヶ月になったら、もう親に似ているんですよ。顔は分からないけれども、形かたちは親に似にているんですよ。そういうふうになってくるんですね。

そうすると、輪廻りんねしているんですから、先ず心臓から出来るということとは、人間終わる時は、心臓がストップして終わりなんですよ。——そうですね。

一九八九年五月